

DR. YOKO's Cafe

体にちょっと優しいお話し

健康づくりで気をつけたいポイントや病気の予防方法をお伝えします。

今月のテーマ

4月9日は「子宮の日」

4月9日は子宮頸がん予防を啓発するための「子宮の日」です。

子宮頸がんの原因になるヒトパピローマウイルス(HPV)は、性的接触のある女性の50%以上が、

一生に一度は感染すると言われています。HPVの感染は、HPVワクチン接種で防ぐことができ、それにより子宮頸がんの原因の50〜70%を防ぐことができます。

今月は、HPVや子宮頸がん予防のための検診・ワクチン接種の重要性について紹介します。

子宮頸がんQ&A

子宮頸がんを知り、早めに対策を始めることが重要です。ここでは、原因・予防・治療についての基本的な情報を解説します。

子宮頸がんってどんな病気？

子宮頸がんは、子宮の入り口にできるがんです。主にウイルスの感染が原因です。初期にはほとんど症状が出ないため、自覚症状があらわれず進行していくという特徴があります。

子宮頸がんの症状とは？

子宮頸がんは通常、初期には症状がほとんどありませんが、進行するにしたがって不正出血、性交時の出血などがあらわれてきます。自覚症状が出たときには、すでに進行していた、ということもあります。

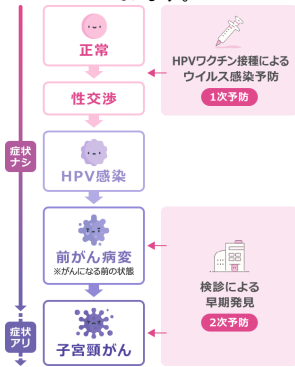
《子宮頸がんの予防法》

①HPVワクチン接種

子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐ予防接種です。HPVワクチンは、その種類や接種時の年齢により、2回もしくは3回の接種が必要です。

②子宮頸がん検診

子宮頸がんの予防には、定期的な検診が必要不可欠です。定期的な検診により、がんになる前の段階やがんの初期に発見することが大切です。また、ワクチン接種をしても、20歳を過ぎたら2年に1回、検診を受けることが推奨されています。



若い世代でも多い
子宮頸がん



HPVと子宮頸がんのこと



ワクチン接種は効果的

子宮頸がんは、子宮の入り口である子宮頸部にできるがんで、日本では、毎年1万人以上が新たに子宮頸がんを診断され、年間約2900人が亡くなっています。

また、子宮頸がんは20〜30代の若い世代でも罹患します。早期に発見できれば、命や子宮を守ることもできますが、就労や結婚、出産、子育てなど、女性にとって大きなライフイベントを迎える時期での発症率も高く、女性の人生に大きな影響をもたらしています。

子宮頸がんの主な原因は、ヒトパピローマウイルスの感染です。子宮頸がんはHPVワクチンと検診(細胞診・HPV検査)を組み合わせることで、撲滅が可能なのとして世界的に認知されています。実際に多くの先進国で子宮頸がんに対策した結果、罹患率や死亡率は減少しています。しかし日本では、ワクチン接種と検診の対策が十分に普及していないことを背景に、罹患率と死亡率はともに増加が続いています。特にワクチンは副反応への懸念から積極的推奨が控えられていました。国立がん研究センターはHPVに関連するがんの対策について、一般向けの分かりやすいリーフレットを公開しています。

子宮頸がんを予防するために、最も効果的な方法は男女ともにHPVワクチンの接種を受けることです。ワクチン接種を受ければ、感染を防ぐことができます。個人の免疫を高めるだけでなく、集団免疫も獲得でき、子宮頸がんの発生率を大きく低下できます。

スウェーデンではワクチン接種は、当初12歳女子のみ行っていました。2020年以降は男女ともに提供されるようになりました。男女ともにワクチン接種を受けることで、より強い集団免疫が得られることが示されたのです。

一定の年齢に達した女性は、がん検診(子宮頸がん・乳がんなど)の定期的受診が重要です。

最近、テレビでも「子宮頸がんはワクチン+検診から」という啓蒙が行われています。子宮頸がんは、もはや助かるがんの一つです。ワクチンで予防し、20歳からの検診を積極的に受診することで、子宮頸がんを減らす女性性は確実に減少すると私たちは願っています。



せんだい総合健診クリニック
院長 石垣洋子



医療法人社団進興会

せんだい総合健診クリニック

住所 〒980-0811
宮城県仙台市青葉区一番町1-9-1
仙台トラストタワー 4F

TEL 022-221-0066(代表)

URL <https://www.sskclinic.jp/>

記事についてのお問い合わせ ☎022-221-1274